

## 物価上昇中の今できる幸せな生き方

岐阜市立藍川中学校 3年  
加藤 七海(かとう ななみ)

「140円?前まで130円じゃなかった?」思わず声が出てしまう。

私はグミが好きだ。だから、私はよくお店に好きなグミを買いだめする。そんな時に、10円の価格差は、買いだめをすると、かなりの価格差でなる。私のお小遣いにとって大ダメージだ。

そういえば、最近、同じようなことを感じる人が多い。親と、ガソリンスタンドに行った時、なんとなくメーターを見ていると、以前より千円ほど高い気がする。またスーパーに行った時、食材を買ったときも同じことを感じる。以前は5千円程度だったものが、多い時は7千円程度になることもあった。以前に比べ支出が明らかに増えているのは、私の家だけでなく、ここにいらっしゃるみなさんも感じてみえることだと思う。

ニュースを見ると「物価上昇に合わせ、給料が上がる」という賃上げのニュースをよく聞くが、私が家ではあまり実感がない。むしろコロナの時に仕事が減り、収入が減った時のイメージの方が強く、収入が増えたかどうか詳しいことは分からないし、ちょっと親には聞きにくいなとも思っている。ただ働いていない自分でも、もし収入が増えていても、食費が高ければ無に帰り、経済的に苦しくなるということは予想できる。

追い打ちをかけるように、つい最近では、天候の関係で、キャベツの生産量が減り、キャベツ1玉1千円を超えたというニュースを聞いた。やはり物価上昇は、凄まじい勢いで私たちの生活を脅かしている。そんな状況なのに、母が準備してくれる毎日の食事で、食事の量や、食材の種類が減ったと感じたことは一度もない。私が一番好きなグラタンには、マカロニ、ミートソース、なす、トマトといった夏野菜が入っているが、その種類や量は減っていない。間違いなく母が工夫しているからだろう。いつも、「何作ろう」と言いながら食事の準備をしている母だから、キャベツ1玉千円の時代に、育ち盛りの私達の食事を作るのは、私にはわからない苦労があると思う。

私は働いているわけでも、政治家でもないのだから、お金を稼いで家計を助けたり、賃上げを可能にしたりすることはできない。だが、母のように自分の手の届く範囲で、できることがあるのではないかと考えた。

私ができそうなことは大きく3つある。

1つ目は、価格比較である。私の好きなグミは、どの店が一番安いのか情報を比較して、一番安く買える店を選ぶ。一番安い店を選ぶと、1個当たり132円で、8円安く買うことができる。こうやって、私は家計を助けたい。

2つ目は、置き換えである。以前あるテーマパークに行った時、自動販売機の飲み物が210円だった。そのテーマパークは持ち込みが可能だったため、母は凍らせた飲み物を持参し、自動販売機の飲み物と置き換えていた。この工夫は、友達と出かける時に、私にもできることだと考える。

3つ目は、物を長く大切に使うことである。価格の安いものも良いと思うが、文房具などは、長持ちするものを選んで買い、それを大切に長く使う。また、これまでシャープペンシルの芯を落とした時は、「まあいいか」と思い、ゴミ箱に入れていたが、その1本の芯を大切に使う。

私は、私の手の届く範囲で、私にできることを続けたい。それが物価上昇の今できる幸せを感じる事ができる生き方だからである。